



関係人口の新傾向



未来をつくるSDGsマガジン これからの世代につなぐ、地球環境について考えてみる!「SDGs」の大特集!

ソトコト

No. 258
9
SOTOKOTO
September 2021
1019YEN

Introduction
to SDGs

SDGs

地球環境編

大好評!

ソトコトOnline

sotokoto-online.jp



アクセスは
こちらから



サステイナブル・
ブックガイド

~SDGsと地球環境に触れる本~

第2特集

SDGsと地球環境系
プロジェクトガイド



島根県「しまコトアカデミー」の新傾向





しまこトアカデミーとは



講座情報



講師・メンター



受講生の声



ニュース



インターンレポート

“移住”しなくても
地域を学びたい！
かかわりたい！

























トヨタ

三重宮川山林

GO! Forest

ワンコと冒険に出かけよう

森の体温、風が運ぶ空の香り、木々のざわめき、水の音…まちなかでは感じられない森の中にワクワクするワンコ。その表情、その動きにワクワクするパパとママ。森の中での冒険は、みんなにワクワクした思い出を残してくれます。いざ！冒険へ！

走る、笑う、ワクワクする

ワンコの

森あそび体験会

in トヨタ三重宮川山林

日帰りプラン

11月10日(土)

11月11日(日)

2日間プラン

11月 17日(土)～18日(日)

11月 24日(土)～25日(日)

開催日

what's

















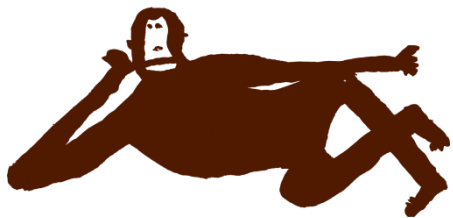




「地域内関係人口」の芽生え



ゴミ、捨てんなよ!



ソーシャル&エコ・マガジン 関係人口とひらく地域の未来!「新・関係人口」の大特集!

ソトコト

No. 250
April 2020
SOTOKOTO

1019YEN

観光以上、移住未満!

新・関係人口 入門

関係人口

3万人アンケート
公開!

New connected mind!

大好評!

ソトコト Online

sotokoto-online.jp



アクセスは
こちらから



ソトコト 第250号 (通算250号) 2020年04月25日発行 (毎月25日発行)





若き建築家の
中村さんは、関係人口です。

東京から
宇都宮に
通ってます！



この書体、
イカしてる
でしょ？

その活動の拠点がこちら、
「ゴールドコレクションビル」！

釜川沿いに立つ「ゴールドコレクションビル」。宝石店が入っていたときにそのビル名に。

学生時代を過ごした“第二の故郷”で。

中村周さんと 『ビルトザリガニ』と、宇都宮“愛”。

学生時代の研究フィールドとして住み始めた宇都宮市の釜川エリア。
その魅力にどっぷりとはまってしまった建築家の中村周さんは、
東京で就職してからも関係人口として釜川エリアに足繁く通い、
今は「ゴールドコレクションビル」を拠点に活動を展開しています！

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

関係人口として、
2歩目の階段を上る。

栃木県宇都宮市の中心市街地を
斜めに横断するように流れる釜
川。その周辺には、空き家をリノ
ベーションしたい感じの飲食店
やセレクトショップが点在し、ク
リエイティブな若者たちが集まる
エリアとして注目されている。

そんな釜川エリアの賑わいをつ
くってきた一人が、「ビルトザリ
ガニ」代表の中村周さんだ。東京
都出身で、宇都宮大学大学院で空
き家・空き地を研究し、そのフイ
ールドとして釜川エリアを選び、
空きバロックをリノベーションし
て「KAMGAWA POCKET」と
名づけ、イベントやワークショップ
を実施。東京で就職後も週末に

通い、釜川エリアを盛り上げ、地
域住民との関わりを深めてきた。
それが中村さんの関係人口とし
ての1歩目の階段だとすると、
「ゴールドコレクションビル」は
2歩目になる。釜川沿いにある築
50年のビルをリノベーションし、
カルチャーの拠点をつくり出すとい
うプロジェクトだ。元々ビルの2
階は、鹿沼市出身の建築家・佐藤

貴洋さんが事務所兼住居として使
い、2階から上の階の管理をオー
ナーから任されていたが、「3階
から5階が廃墟みたいで寂しいか
ら」と中村さんに声をかけ、宇都
宮市出身の建築家・城生一葉さん
も巻き込んで、三人で「ビルトザ
リガニまちづくり合同会社」を立
ち上げ、2階以上を借りて、少し
ずつリノベーションを進めている。

「ビルトザリガニ」代表・
中村 周さんに聞きました。

関係人口になって、
得たことは？

メンバー“越し”の
仲間に出会えた。

「ビルトザリガニ」のメンバーの佐藤さん“越し”の
仲間や、城生さん“越し”の仲間に出会えたこと
で、プロジェクトがよりおもしろく発展しています。



1.4階のシェアオフィスにある貸し会議室。1時間1000円。2.会議室では宇都宮のアーティストがつくったZINEも販売。3.壁には猫の絵が。4.4階のシェアオフィスには個別ブースが5区画あり、クリエイターが借りている。5.4階のキッチンにも「ゴールドコレクション展」のときに壁に描かれた絵が残る。6.「シェアオフィス」のレーザークッターでつくったロゴ。7.展覧状態の5階。この部屋は、週末に仲間が泊まれるゲストルームにリノベーションしようとしている。8.5階の窓から

は中心市街が一望でき、眺めは最高。9.3階は佐藤さんの住まい。10.佐藤さんの住まいはこんな感じ。仕事は4階のシェアオフィスで行う。11.「ビルトザリガニ」のメンバー。右から、中村さん、城生さん、佐藤さん。12.2階の「珈琲屋とモノ屋 satori」は2つの店が同居。こちらはモノ屋。中村さんの友達の家で展示会を開催。13.こちらは珈琲屋。予約必至のスイーツが人気。14.2019年に4階で行われた「カマガワ クリエイティブスクール」の様子。

です」中村さんが笑うように「絶賛」リノベーション中だが、しばらくは廃墟の雰囲気を残したままイベントスペースやスタジオとして貸し出すことにするようだ。また、宇都宮には工業団地があり、大手製造会社の研究開発センターや工場に多くのエンジニアが勤めている。なかには「休日も何かつくりたい」というものづくりのオタクもいて、「シェアガレッジ」というコミュニティをつくり、4階のシェアオフィスの1区画を借りて3Dプリンターやレーザーカッターを置いてものづくりを行い、オフ会やワークショップを開催している。「思う存分、ものをつくれる居場所ができてうれしいです」他社のエンジニアとの交流が生まれ、刺激し合っています「ワークショップを開き、地域の子供たちにもものづくりの楽しさを伝えています」とメンバーたちは笑顔で話す。

宇都宮大学の学生たちが主体となつて金川エリアの未来を考えた「KANAGAWA DESIGN CLASS」も開催し「景観形成重点地区」の指定を目指す金川エリアのビジョンブックをつくらうとしている。「そんな、多様な人たちがそれぞれの目的や、温度感で「ビルトザリガニ」と関わることで、金川エリアの関係性を増やし、魅力ある地域にしていきたいです」と、中村さんは金川エリアの未来を見据える。



仲間の稲城誠さんと4階のシェアオフィスで、クリエイターがワークショップを行う「カマガワ クリエイティブスクール」の打ち合わせ。

「ザリガニの語源は「いざり蟹」という説も。「いざり」とは後ろ向きに進むこと。宇都宮の中心部も人口減少や若者の流出で経済は停滞気味。まさに「いざり」まち。でも後ろ向き時代だからこそ空き家が生まれ、新しいまちづくりのチャンスがあるわけです。いざりながらもビルを構築（ビルト）し、前進する。そんなイメージを共有したいです」と「ビルトザリガニ」に込めた思いを語った。



上/「ビルトザリガニ」のロゴ。下/エアコンの通気孔にとんかつ屋時代のメニュー板が。

「協賛も、より多くの方に関わってほしい」1口2000円に設定し、金川エリアや宇都宮で募りました」と中村さん。ビルのリノベーションのための寄付は、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングでも募り、後輩の宇都宮大学の学生たちが、「壊すことはつくること」という合言葉のもと、室内の解体を行った。今、2階は「珈琲屋とモノ屋 satori」、3階は佐藤さんの住まい、4階はシェアオフィス、5階は「まだ廃墟

ザリガニのように、いざりながら前進を！
「ビルトザリガニ」とは、中村さんたち三人が設立した合同会社の名前であり、クリエイターや地域の人たちが自由に出入りできるプラットフォームでもあり、そこから立ち上がるプロジェクトの総称でもある。中村さんが代表を務める「釜川から育む会」が釜川の生物調査を行った際、源流近くにたぐさんいたアメリカザリガニを描き、みんなでパーベキューをして食べたことがきっかけでその名がついた。「ザリガニの語源は「いざり蟹」という説も。「いざり」とは後ろ向きに進むこと。宇都宮の中心部も人口減少や若者の流出で経済は停滞気味。まさに「いざり」まち。でも後ろ向き時代だからこそ空き家が生まれ、新しいまちづくりのチャンスがあるわけです。いざりながらもビルを構築（ビルト）し、前進する。そんなイメージを共有したいです」と「ビルトザリガニ」に込めた思いを語った。

多様なクリエイターがビルに集まり、まちへの関わりを深めています。
ビルのリノベーションが始まった2018年、中村さんたちの思いに共感した栃木県や宇都宮にゆかりのあるアーティストやデザイナー、一般の人たち20組が、リノベーション前に開催した「ゴールドコレクション展」に出展。ビルの壁に絵を描いたり、釜川沿いの作品を展示したり、ユニークな空間が2週間にわたって出現した。

「ビルトザリガニ」代表、中村 周さんに聞きました。

関係人口になるコソは？

住民票を移すこともコソの一つ。

2拠点居住で移住してなくても、住民票を移せば地域の人からの信用度は大きくアップするはずです。僕はまだ移していませんが。



記者の目

関係人口の現場取材して。

中村さんのように地方で仕事を営業する場合にネックとなるのが、交通費。東京～宇都宮の在来線往復は1日約4000円で、毎週1回なら月に約1万6000円。それを、政府が支援する制度が始まるとか。関係人口の皆さんには朗報ですね!

「はい、何ですか?」と、「コミュニケーションを誘発。」

大学院を出て4年。中村さんは東京の有名建築事務所ビッグ・プロジェクトを担当しながら、休日は釜川エリアや宇都宮市の関係人口になり、複業として仲間とエリアップりに励んでいる。「最近の建築家は特定のフィールドに関心を持っていきます。僕は若くして釜川というフィールドに飛び込み、一足飛びで経験を積み上げてもらっ



上/釜川沿いの「KAMAGAWA POCKET」で仲間と談笑。右下/アトリエ兼イベントスペース兼住居として中村さんが2013年にリノベーション。左下/テラスには誰でも自由に本を手にとっていい「かがや文庫」が。

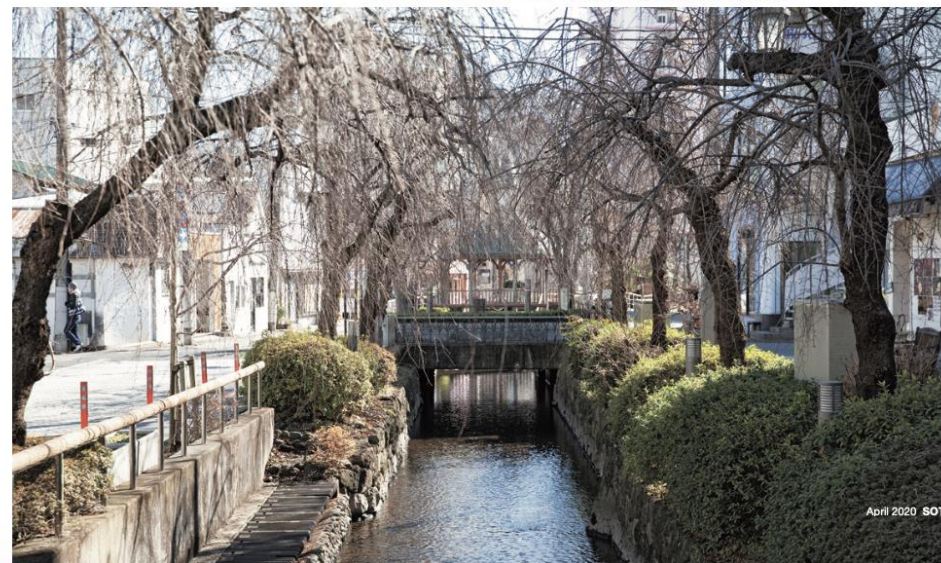
釜川沿いから宇都宮の魅力を発信し、新しい仲間とつながろう!



上/「シェアガレージ」の江口薫さん、植田浩介さん、柏原泉太郎さん(右から)。下/4階でものづくりのワークショップも開催。



右/「釜川から育む会」で実施した釜川の環境調査。生き物や水質を子どもたちと一緒に調べた。左/「釜川から育む会」で活動する稲越さんは埼玉県から通う関係人口。下/憩いの場として愛される釜川。





「おやまちプロジェクト」は、
こうして生まれた!

東京・渋谷駅から東急電鉄に乗って約20分。尾山台駅前に延びる尾山台商店街を中心に、さまざまな取り組みを行っている「おやまちプロジェクト」。始まりは2016年秋、商店街の将来を案じた「タカノ洋品店」3代目で、尾山台商栄会商店街振興組合理事の高野雄太さんが、近隣にある東京都市大学の地域連携・生涯学習推進室に相談に行ったこと。「毎日16時から18時まで商店街はホコ天になるのですが、そこで大学と一緒に何かできないかと思って」と高野さ

ん。紹介された都市生活学部准教授の坂倉杏介さんは、「私のゼミも15時から18時半。ホコ天でゼミを開けばおもしろいかも」と、翌年4月にゼミ生と商店街にホワイトボードを運び込み、「路上ゼミ」を開催。それが、「おやまちプロジェクト」の発端となった。

2か月後、各商店主が講師になって店先



右/尾山台商店街のアーチ。100年ほど前から販売が始められ、商店街として発展してきた。左/東急・大井町線の尾山台駅。改札口を出るとすぐに商店街につながる。

で講座を開く、商店街主宰の「尾山台まちなかゼミナール」の開校式で、坂倉さんが「30年後の商店街を考えよう」というテーマでレクチャー。それを聞いた住民が、尾山台小学校校長の渡部理枝さんに「いいレクチャーだった」と報告。関心を持った渡部さんは坂倉さんと会い、活動することに。さらに、尾山台小学校に長女を通わせていた住民で慶應義塾大学教授の神武直彦さんもジョイン。商店主、大学教員、小学校校長、住民の4人が発起人となって「おやまちプロジェクト」が動き始めた。どんなイベントを開き、つながりを育んでいるのか、紹介します!

「おやまちプロジェクト」は、続々進行中!

尾山台を
楽しもう!



特集
地域を動かす
ローカルプロジェクト
Project Local

尾山台での暮らしを、もっと豊かに。まち

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

づくりのきっかけは、「おやまちプロジェクト」!

商店街、大学、小学校、住民がゆるやかなつながりを育み、それぞれの資源を生かしながら、暮らしが豊かになる取り組みを実践している「おやまちプロジェクト」。舞台である東京・世田谷区尾山台地域を訪ねました!



つながるホコ天プロジェクト

毎日16時から18時まで歩行者天国になる尾山台商店街。その2時間のなかで、地域の人が顔見知りになり、声をかける間柄になるきっかけをつくらうと、東京都市大学の学生が中心となってキャンプや書き初めなどさまざまなイベントを企画・運営。買い物に来た住民や子どもがイベントに参加し、交流を楽しみながらつながる姿が見られる。



おやまち子ども食堂

子ども食堂を開きたいと考えていた障害者相談支援専門員の平福恵津子さんは、その思いを「おやまちサロン」で発表。「BARおやまち」でも話を切り出すと、その場にいた女性が「私も手伝いたい」と共鳴。さらに、管理栄養士の資格を生かしたいと別の女性も参加。多くのボランティアのサポートを得て「おやまち子ども食堂」を運営中だ。



おやまちサロン

商店街の端っこにあるピアノ教室&イベントスペース「Fluss（フルス）」では、「おやまちサロン」を開催。運営するのは、デザイナーの黒川成樹さんとピアニストの小松陽子さん。「おやまちサロン」は、講師を招いて話を聞きながら、尾山台でできることをみんなで考える勉強会で、子どもたちの放課後の過ごし方や国連が定めたSDGsなどについて話し合った。



1/高野さんの高校時代からの友人、黒川さんと奥さんの小松さん。2/グループワークの結果を発表。3/住民や大学生がSDGsについて学んだ。4/商店街の空き店舗を借り、実験的に取り組みを行う拠点「おやまちベース」。5/セルフリノベーションでつくった「Fluss」。

東京都市大学

「おやまちプロジェクト」に参画する、坂倉さんの都市生活学部コミュニティマネジメント研究室と、専任講師の末繁雄一さんの都市プランニング研究室。学生らしい発想で楽しいイベントを開催中だ。「魅力的な店舗ほど商売が続けるのが厳しい状況にあるようですが、学生たちの活動で商店街がより元気になるよう願っています」と末繁さん。



1/末繁さんと娘の花鈴ちゃん。2/坂倉さんのゼミ生たち。3/「おやまちプロジェクト」で学生パワーを発揮！3/「まちゼミ」開校式で尾山台のこれからをレクチャーする末繁さん。4/ゼミ生と「OYAMACHI CAMP」のイメージを設計。



1/「路上ゼミ」では、学生が探してきた「尾山台ならではの」発表。通りすがりの人も耳を傾けた。2/店内で学生たちがミーティング。3/「おやまちサロン」も開催。4/タカノ洋品店。5/左から高野さんと母の美恵子さん、妻の美音さん。



タカノ洋品店

学校用品を扱う「タカノ洋品店」。大学生やまちな人たちが集まって、「おやまちプロジェクト」の企画や運営方法を話し合う拠点に。「尾山台が選ばれる地域になるよう、楽しいイベントを企画しています」と高野さん。母の森美恵子さんは、「学生たちが夜遅くまで話し合っているときはおにぎりをつくらう。孫のようにつき合っています」と笑顔。



「おやまちプロジェクト」、垣根を越えて広がっています！



1/いつも来て帰っても自由なで気軽に立ち寄れる。2/毎週、尾山台の店舗の一品をつまみに、3/第1回「BARおやまち」では30人以上が出入りした。4/地域のワイセラー、「八幡屋蔵部」も5/武田さん（左）と高野さん、坂倉さん。

BARおやまち

商店街のワインマーケット「八幡屋蔵部」で、月1回開催される「BARおやまち」。「おやまちプロジェクト」に関わってもらいたい人を気軽に誘い、ゆるやかなネットワークが生まれることを期待するイベントだ。店主の武田智之さんは、「普段は知り合えない人たちが一緒にワインを飲み、会話をを楽しむことで、つながりが広がっています」と話す。



おやまちデザインプロジェクト

地域の人が尾山台の未来を考え、行動するプロジェクト。例えば、「おやまち今昔写真のワークショップ」では、地域のお年寄りが昔の尾山台の写真を持ち寄り、大学生や子どもたちに歴史を語った。その写真を手にまちを歩いて現在と比較。「世代を超えて対話を楽しめました」と神武さん。校長の渡部さん。「教室では得られない体験」と喜ぶ。





坂倉 何がきっかけで新しいことが始まるのかわからない個性も「おやまちプロジェクト」の魅力。そのために、いろいろな立場の人が気軽に参加でき、つながれる状況をつくるのが大事だと考えています。商店街の空き店舗を借りた「おやまちベース」も、何が起るか誰にもわかりません。餅つきをしながら学生が「おやまちベース」をこんな場にしたいと書いたチラシを配っていたんですが「私も使ってみよう」という雰囲気の人たちもチラホラおられました。だから、やってみないとわからない。やってみて結果をみんなで共有し、失敗しても「次はこうしよう」と前に進めばいいのです。

高野 そもそも「失敗」なんてないです。それこそ、そこから学ばないといけない。手前味噌ですが、新潟出身の祖父が戦後、東京へ出てきて、尾山台で洋品店を始めたからこその僕の暮らしがあります。商店街がいろいろで、持統しているのも先人たちの努力の結晶。僕がやりたいことは、既存の組織をつなぎ直し、組織外の人も誘いながら、未来に向けた商店街をつくっていくこと。その装置として「おやまちプロジェクト」がある。



ゼミ生の田中利枝さん。「みんなが夢を応援しあって、実現できる尾山台になればいいな。」

坂倉 ものを売るだけの商店街ではなく、通りや店に人が集まり、新しいことを思いいたり、困り事を相談し合ったり。そんな風景が普通に現れようになるといいですね。誰かがやりたいことを実現しやすい尾山台になるよう、もっとつながりを広げていきたいと思います。



上/尾山台商店街は「ハッピーロード」の愛称で呼ばれ、地域住民から親しまれている。下/1920年代から店が建ち始め、49年に尾山台商業会が発足。現在は空き店舗が暇番待ちになるほどの人気の商店街として賑わっている。

遠い私立に通う小学生に、尾山台の友達ができたら！

坂倉 「おやまちプロジェクト」がスタートして1年半。高野さんの思いが深かったことは？

高野 ジュンくんです。名古屋から尾山台に引っ越してこられたご家族の1年生の男の子。離れた私立の小学校に通っているのに、尾山台の友達がいままでした。JOYAMA CHI CAMPでプールを出したとき、「僕も入りたい」。そこで都市大生やうちの家族と親しくなり、息子を通じて尾山台小学校の友達もできました。お母さんは、「ジュンがホコ天に来るのを楽しみにして」と喜んでくださっているばかりか、今や「ホコ天」のスタッフのように手伝ってくださっています。

坂倉 私は「JOYAMA CAMP」の夜、テントで寝ていたら、夜中の2時頃に突然、「何やっているんですか！」と声をかけてきた女性がいました。夜中だったので連絡先を渡すと後日、「尾山台に住んで1年が経ちますが、知り合いがいなくて」という手紙が届いたんです。で、高野さんと3人で飲みました。

高野 行きました(笑)。

坂倉 普通に暮らしていてもまわりの人と知り合う機会って意外と少ない。だったら、気軽に顔見知りになれる場所をつくらうという話になり、始めたのが「BARおやまち」。

高野 尾山台のお店の一品をワインのつまみに出せば、お店の紹介もできる。1品食べれば、知らないお店でも買いに行きやすくなりますから。



坂倉杏介さん × 高野雄太さん。 「おやまちプロジェクト」の いまとこれから。



上/取材した日は「おやまちベース」のオープン翌日。お祝いにとホコ天で餅つきを行った。中右/子どもが書いた「おもちつき」の看板。中左/「お餅、ついでいきませう」の呼び声につられて、通りがかりの住民が餅つきを楽しんだ。下/ついた餅はまちの人に振る舞われた。

誰もがやりたいことを、実現しやすい地域になるように。

107

おやまちプロジェクト

東京都

発起人の坂倉杏介さんに聞きました！
ローカルプロジェクトを動かしていくコツは？

とにかくやってみること。その手応えから次の一歩をみながら考えていく。メンバーの持ち味を大事にし、人と人をつなげるコミュニティマネージャーの視点を持つこと。

活動団体名/おやまちプロジェクト
スタート年/2017年
<http://oyamachi.org>



長縄尚史さん
『かかみがはら暮らし委員会』
代表理事



上／「学びの森」でくつろぐ長縄さん。右下／各務原市役所が発行する広報誌「OUR FAVORITE KAKAMIGAHARA」。左下／岐阜大学農学部が農場跡地を整備した「学びの森」。



岐阜県各務原市。大きくて明るい公園に、素敵なメンバーが集まりました！

知られていなかった公園を、人が集まる交流の場に。
岐阜県各務原市にある市民公園「学びの森」の周辺で年に1回、「マーケット日和」という市主催のイベントが開かれていた。飲食や雑貨など数多くの店舗が軒を連ね、約4万人もの来場者が訪れる各務原の人気イベントだ。
企画・運営に携わっている「かかみがはら暮らし委員会」代表理事の長縄尚史さんは、11月に開催された第6回の「マーケット日和」を無事に終え、安堵の溜め息をついていた。
2013年から始まった「マーケット日和」は第2回の開催を前に、「民間のアイデアやノウハウを活用したい」と市が企画運営委員を募り、美容室を営む長縄さんに依頼。以前に音楽イベントを開いたり、地域発信型映画に関わった経験を買われたようだ。長縄さ

んはライフスタイルショップ「長月」を営む尾関加奈子さんを誘い、同様に依頼された岐阜市・柳ヶ瀬商店街の飲食店「ディダイダ」の水野陽子さんと夫の水野幸仁さんと合流。さらに、岐阜市のデザイン会社「リトルクリエイティブセンター」代表の今尾真也さんを加えた5人が実行委員会に入り、企画運営を担当することになった。ただ、会場の「学びの森」は、市民に広く知られた公園ではなかった。「マーケット日和」の開催日だけでなく、日常的に公園に人が集まるように」と長縄さんは公園の隅に佇むガラス張りの建物に目を付け、その活用方法を市に提案。公募によって選出されると建物の内装をリノベーションし、「KAKAMIGAHARA STAND」という交流・発信拠点となるカフェ&スペースをオープンさせた。その運営のために「かかみがはら暮らし委員会」を設立し、先の5人が理事に就いた。
「KAKAMIGAHARA STAND」が評判となり、「マーケット日和」も回を重ねるなかで、「学びの森」は「おもしろい場所」として市民に親しまれ、人が集まる場になっていった。「散歩をする人、犬と遊ぶ人、テントを張ってくつろぐ人。以前はこういう風景はありませんでした。気持ちいいです！」と、長縄さんは芝生に腰を下ろし、変わってきた公園の姿を見渡した。

『かかみがはら暮らし委員会』代表理事・長縄尚史さんに聞きました。

Question▶地域のデザインで大切にしていることは？ Answer▶何はともあれ、人です。

ハードだけではなくソフト、つまり人がいてこそデザインが生まれます。そこに暮らし人々のキャラや得意分野を大切にしながら地域をデザインしたいです。



岐阜県各務原市を舞台に、まちを楽しむ人を増やす活動を展開する『かかみがはら暮らし委員会』に関わる人たち。

まちを楽しむきっかけをデザイン。

『かかみがはら暮らし委員会』が願うもの。

美容師、ライフスタイルショップ店主、飲食店店主、工務店社長の

4人の理事と、その理念に共感する委員が現在40人ほど、

さらに、活動に関わったり、参加する人は数え切れないほど大勢！

「かかみがはら暮らし委員会」は日常と非日常をデザインし、まちを楽しむ人を増やしています。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui



●11月に開催された「マーケット日和」。芝生にテントを張ってくつろぐ来場者も。●長嶋さん肝いりの企画「森のお食事会」。木の下でランチを味わう。●「森の音楽隊」の手廻しオルガンを女の子も体験。●料理、パン、ワイン、紅茶、お菓子、食器、テーブルなど若手職人がコラボした「森のお食事会」。

公共空間を有効に使ったイベント「マーケット日和」。
公園の魅力が知られ、人が集まる光景が日常に！



「かかみがはら暮らし委員会」代表理事・長嶋尚史さんに聞きました。

Question ▶ これまで影響を受けたデザインは？ Answer ▶ 漫画の「キングダム」です。

主人公・信だけの物語ではなく、登場人物それぞれに考え方や生き方、美学があり、それがクロスしながら世界の未来がつくられていく。つまり、生き様もデザインもさまざまな意味で影響を受けました。



●市から建物を借りて運営しているカフェ＆スペース「KAKAMIGAHARA STAND」。家賃は賃料費を含めて月に5万円ほど。●イベントや展覧会を行えるスペースも備わっている。●明るくナチュラルな雰囲気のある店内。●人気のサンドイッチ。●長嶋さんが運営する「かもす食堂」。●「マーケット日和」では、東白川村のお茶と各務原市の和菓子店のコラボで「かもす食堂」内にお茶処がオープン。3種の茶葉を、3種の淹れ方で、3種の和菓子と楽しんだ。

ひとりひとりが
出会い、まちを思い、
遊ぶコミュニティが広がっていきます。



右上・右下 / 41人の部員が所属するカメラ部。写真展も開催し、「写ルンです」でフリンダーを覗かず撮った写真の展覧会は好評だった。左上・左下 / 毎月第1水曜19時半から開催される「寄り合い」。2017年から30回以上開かれ、交流のきっかけを生んできた。

「寄り合い」から生まれる、
ユニークなコミュニティ
「KAKAMIGAHARA STAND」
はカフェであり、人が交流し、ま
ちの魅力を発信する拠点でもある。
「かかみがはら暮らし委員会」が
月に1回催すイベント「寄り合
い」もその一つだ。「テーマもゴ
ールも決めず、誰か来て、何を話
してもいいオープンな場で、その
日集まった人たちが話したいこと
を話し合います」と説明するのは、
最近まで「かかみがはら暮らし委
員会」の事務局を担当していた戸
高翼さん。「みんなの意見を聞き
たいと話をしに来る人がいたり、
移住者が友達を見つけに来たり、
店を始めた人がつながりを求めて
来たり。ファシリテーターの僕で
さえ予測不能な方
向へ展開するのが
「寄り合い」のお
もしろいところ。
多様な価値観が表
出する場です」。
「寄り合い」をき
つかけに、さまざ
まな人が「KAKA
MIGAHARA ST
AND」に集まるよ
うになった。互い
の共通項を見つけ
た同士がより親
密なコミュニティ
をつくることもあ
る。「部活動」もそ

の一つ。今はカメラ部、S A K K E
部、からだ部、読書部、コーヒ
部、銭湯部、カルカソンス部があ
り、年齢も肩書も異なる人たちが
楽しく活動している。
また、「Pin」という新しい団
体もこの「寄り合い」をきっかけ
に生まれた。各務原の人や物、場
所を発掘し、そこにPinを打つ
ように新しい価値観を生み出そう
と活動が始めている。さらには、
戸高さんが預かった迷い猫を、
「かかみがはら暮らし委員会」に
関わる人たちが親となり、お
金と愛情を出し合っ一緒に育て
るという変わったコミュニティも
生まれているように、「KAKAMI
GAHARA STAND」を拠点にし
た人々の、ユニークな交流が広が
っている。

MEMBER INTRODUCTIONS

『かかみがはら暮らし委員会』の仲間たち!

イベントなどの活動情報をSNSで発信!



尾関加奈子さん

ライフスタイルショップ『長月』店主で、理事。主にSNSを使って「マーケット日和」や「KAKAMIGAHARA STAND」のイベントの発信を担当している広報部長的存在。

事務局を辞め、今はフリーの立場で関わっています!



巨高 翼さん

大学卒業後に『かかみがはら暮らし委員会』に就職し2年半、事務局を担当。共同財布アプリ「GoJo」で12人の飼い主から「養育費」を集め、「そば」という名の猫も育てている。

カメラ部を立ち上げ、イベントを行っています!



高田沙織さん

カメラマンで、委員。「寄り合い」で仲よくなったカメラ好きの参加者とともに、部活動第1号となるカメラ部をつくった。「カメラ散歩」したり、写真展を開いたり。楽しいです!。

100パーセント岐阜県産小麦粉の蒸しパンをどうぞ!



清水弥生さん

『KAKAMIGAHARA STAND』店主で、委員。水野陽子さんオリジナルの蒸しパンをアレンジして店舗のキッチンでつくり、販売。これまでに100種類以上も販売してきた。

「学びの森」にあるカフェのメニューを考えました!



水野陽子さん

飲食店「ティダティダ」店主で、理事。「学びの森」にある「KAKAMIGAHARA STAND」のメニューをディレクション。東京にオープンしたカフェ「岐阜ホール」のメニューも監修。

愛着のある「学びの森」を素敵な公園に!



長崎尚史さん

『hairmake duca』店主で、代表理事。その人らしい髪型にしようと髪を切るのと同じように、どうすれば「学びの森」らしい公園になるかを探りながら、イベントなどを企画している。

子育てのために移住しました。「Pin」で活動中!



橋 拓也さん

ドライフラワー・絵画教室「sirol」代表で、委員。任意団体「Pin」のメンバーとしても活動。娘の真白ちゃんが生まれ、福岡県糸島市から子育て環境に優れた各務原市へ移住。

公園のカフェにリードフックをつくりました!



水野幸仁さん

オーダー家具を製作する「ユキヒト工務店」代表で、理事。市の講座「自然体験塾」の特別講座で「かかみがはら暮らし委員会」で助け合い、星空キャンプやジビエ教室を開催している。

メモ帳を片手に、事務局の仕事がんばります!



杉田映理子さん

東京で岐阜をPRする「岐阜ホール」を運営するデザイン会社「リトルクリエイティブセンター」の社員で、事務局を担当。理事や委員が活動しやすいよう、制度や仕組みを整える。

お客さんも「委員会」の皆さんも温かい方ばかり!



水野すみれさん

『KAKAMIGAHARA STAND』店主で、委員。水野さん夫妻の娘。今年から「マーケット日和」の運営委員も担当。おすすめのドリンクは、人気ナンバーワンの中黒糖ほうじ茶ミルック。

コーヒーが大好き。「Pin」のイベントでも出店!



横山裕一さん

大学3年生で、任意団体「Pin」のメンバー。大学を休学し、オーストラリアで1年間修業して学んだコーヒーの知識と技術を生かし、コーヒーショップを経営するのが将来の夢。

トマト農家です。「Pin」の活動で各務原の魅力を発信!



木村 涼さん

「はしもと農園」代表取締役で、委員。任意団体「Pin」のメンバーとして、12月には「クリスマスマーケット」を開催。農園を設立した経緯を生かし、起業塾を開催したいと考えている。

公民連携の相乗効果で、まちを楽しくする人が増える!

「マーケット日和」には、各務原市との公民連携によるイベントだ。企画・運営、プロモーション、デザインなどは基本的に「かかみがはら暮らし委員会」が、会場の使用許可や警備、事務作業などは市が担っている。「互いにできること、できないことがありますから、役割を分担しながら、共通の価値

観を持って進めています」と長縄さんは言う。

尾関さんは「まちや公園が楽しくなればと毎回、新たな要素や委員会のカラーを加えながら企画運営しています。予算を持つ市とでは「マーケット日和」を開いている魅力的なまちという見え方で各務原を発信したいのでしよう。そんな公民の相乗効果が生まれている気がします」と話す。

水野幸仁さんも「そう言えば

最近、各務原に移住しようかなという人の話をよく耳にするようになりました。もちろん「マーケット日和」だけが移住の要因ではないでしょうけど」と笑顔で話す。「マーケット日和」や「KAKAMIGAHARA STAND」が成功した理由の一つに、長縄さんは「かかみがはら暮らし委員会の理事が店や会社の経営者であることを挙げる。発信方法や見せ方も含めて、常に来場者やお客さんあり

きで物事を考えている。だから、喜ばれるのだと思います」。ただ、水野陽子さんは「すべての作業がボランティア。持続的な運営のためにも、少しでも報酬をいただければという気持ちもあります」と本音を語る。

一方、こんな成果も見られた。18年の「マーケット日和」から出店者には2店舗以上のコラボレーション出店を義務づけているが、「そうすると、応募の前段階から

「学びの森」エリアの認知度や価値を上げ、ほかの公園を活用する際の手本になるようなユニークな活動を展開する「かかみがはら暮らし委員会」19年2月からは、その体制を整え直した。年5000円の会費を納める会員制に変わった。「理事と委員の結束を強めることで、プロジェクトや事業がより生まれやすくなる」と考えている。長縄さん、各務原のまちを楽しくする人が増えることを願って



「マーケット日和」の当日、『かかみがはら暮らし委員会』に関わる人たちが集まってくれた。皆さん、ナイス笑顔!

まちを楽しくする人を増やしたい!



『かかみがはら暮らし委員会』代表理事・長崎尚史さんに聞きました。

Question▶ 私たちの地域に来たら、こもおすすめ!

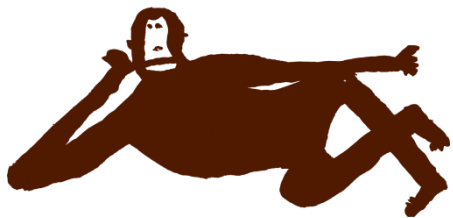
Answer▶ カロトギフです!

加藤佐輔さんの茶畑工と、加藤美佐さんの料理が楽しめる雑貨店&カフェ。ご夫婦の世界観や人間性、料理と店の雰囲気、それらのバランスと委員会が独特好きです。

多様化する「関係案内所」



ゴミ、捨てんなよ!





特集

新・地域の編集術

その土地の宝物を見つけ、
光らせるテクニック!

Edit local

編集とは、あるものを集め、それを編むことで、さらなる価値観や魅力をつくる楽しい手法。「地域を編集する」新しいタイプの編集者たちが、まちに育っています。ワクワクする地域の編集術を学んでいきましょう!

photograph by Hiroshi Takaoka text by SOTOKOTO



埼玉県草加市の「シェアアトリエつなぐば」で、笑顔があふれるこの場所は、どんな地域の編集術で誕生したのでしょうか?

021 SOTOKOTO May 2021

May 2021 SOTOKOTO 020



「ナカイチ」は、博多南駅前ビルのお名前です！



新幹線のやって来る博多南駅。

ガラス張りのビルが「ナカイチ」。写真左の「JR博多南駅」の看板を奥に進むと新幹線が停車する駅がある。

福岡県那珂川市の楽しい玄関。

多様な価値観が集まる「ナカイチ」。

2018年3月にリニューアルオープンした「博多南駅前ビル」、愛称は「ナカイチ」。
2年が経とうとする今、何を一番大切にしたい場づくりを心がけているのか？ 運営に携わる「ホーホウ」の三人に聞きました。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

住民のニーズを探りながら、リニューアルオープン！

福岡県福岡市近郊のベッドタウン、那珂川市。博多駅と博多南駅を結ぶJR線が市民の通勤・通学の足となっているが、新幹線車両が在来線として走っていることに驚く。元々は博多駅で営業を終えた新幹線を那珂川市にある車両基地に運ぶ回送線だったが、住民の要望に応じて駅を設け、一部車両は在来線特急として運行しているという珍しい路線だ。

その博多南駅の駅前に、市所有の4階建てのビルが立っている。博多南駅前ビルだ。まだ那珂川市が町だった2004年にできたビルで、今は「ナカイチ」という愛称で親しまれているものの、長い間、利用者が少ない状態が続き、町民が離れてしまった時期もあった。

そこで、旧・那珂川町は18年10月に市になるにあたってビルのリニューアルを決定。「ことば那珂川」という事業名で3年間、社会実験的なイベントを重ね、住民のニーズを探り、リニューアル空間を設計。地域づくりに関心を持つプレイヤーズを募りながら、18年3月にリニューアルオープンした。「ことば那珂川」は、宮崎県日南市の海洋商店街再生事業で手腕を発揮した木藤亮太さんと、リニューアル事業開始当初から関わっている坂口麻衣子さん、一市民として活動に参画してきた森重裕希さんが立ち上げた「ホーホウ」が運営を引き継ぎ、カフェやレンタルスペース、ワークスペースなどの事業を展開している。今、「ナカイチ」には、どんなふうに人が集まっているのか？新幹線に乗って訪ねてみた。

博多南駅に停車中の新幹線車両。世界最速の時速300キロ以上で走っていた500系電車も運行。博多駅との片道約8.5キロを8分程度、300円で走る。



大人たちが、
自分の時間を
楽しみに集います。

特集
PEACEMAKING ONCOWS
M10
人が
集まっている場所の
つくり方

『本町しもたや』がつくるシェアリビング。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

群馬県
高崎市にあった
日本家屋。

『本町しもたや』を運営
するメンバーたち。入り
口に立つ中央の男性が
運営者代表の大澤博
史さん。

ようこそ!

「本町
しもたや」へ!

「点から面へ」の場づくりの仕組み。

群馬県高崎市にオープンした大人のシェアリビング「本町しもたや」。単にそこだけに多くの人が集まる場づくりではなく、
人通りが少なくなった本町通りエリアに、再び価値をもたらす仕組みを備えた「面的」な場づくりを目指しています!

お、
久しぶり!

いろんな
人が
来ているなあ!

この日は、オープニング
パーティ。場づくりに関
わった人や友人に遊び
かけると70名ほどが集
まった。

065 SOTOKOTO May 2018

伊東屋珈琲

ゆっくりして
いってください。

May 2018 SOTOKOTO 064

旅と時間を、ここ阿久根市から編集する。

『イワシビル』に込めた思い。



鹿児島県阿久根市の水産会社の常務取締役・下園正博さんがつくった、カフェやショップ、工場、ホステルを備える「イワシビル」。

販売する自社商品の開発では、社員自らが生産者に取材し、阿久根らしさにこだわった「旅と時間」を届けている。

名前も中身もユニークな「イワシビル」を体験しました！

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

特集

地域で生かす、編集力

skills of local editing

『イワシビル』の最寄りの阿久根駅、高級列車「ななつ星」で知られる水戸黄門観光のデザイン。

「何かやれ」と、父に託された一棟のビル。

最近、丸干しを食べましたか？

「そう言えば、食べていない」という方は、「イワシビル」で販売している「旅する丸干し」を食べてほしい。洋風に味つけた丸干しの、おいしさと新しさに驚くでしょうから。

鹿児島県阿久根市は、昔から丸干しの原料となるイワシの産地だ。その海沿いの地区で80年ほど前、サバやイワシの加工販売を始めたのが、下園正博さんの祖父・薩男さんだ。水産会社「下園薩男商店」として父親の満さんが受け継ぎ、今は主に量販店に丸干しを卸す商売を営んでいる。下園さんはその3代目。常務取締役を務めているが、ある日、社長の満さんから、「正博、ビルを買おうと思うが」と告げられた。

「どうだ？ 安いらいぞ」

「ビルなんか、何に使うの？」

下園さんは反対した。「旅する丸干し」という「下園薩男商店」にはない新商品を開発し、それを販売するカフェ&ショップを海が見える丘につくろうと計画していたからだ。「そのための資金に取っておいてほしい」と頼んだが、満さんはビルを購入。「何かやれ」と下園さんに託した。「魚を扱うあの世代の大人は、買いだ」と直感したら迷わず買います。魚の値は収穫量に左右され、今日と明日で何倍も変動することがありますから。それでビルも」と苦笑いを浮かべる。

突然手に入った、築約50年の3階建てのビル。市の中心地はあるが、シャッター通りと化した商店街の端っこに位置するこのビルで、どんなビジネスを行えば収益を出せるのか、

鹿児島県阿久根市の中心地にある3階建てのビル。こちらが「イワシビル」です！

IWASHI BLDG.

「イワシビル」で、阿久根らしさを味わってください！

下園薩男商店
常務取締役の
下園正博さん

たい焼きとお土産処

「イワシビル」で自社商品を製造し、地域の人や旅行者を迎えるスタッフの皆さん。女子率が高い！

「クスろ港」「クスろ」とは？

「おもしろがる」作戦で、街を元気に！

北海道釧路市で、新たな出会い、アイデア、アクションを生み出し続け、クスッと笑顔で過ごせる元気な街をつくらうと活動する20〜30代による市民団体「街をおもしろがる」ことを信条とし、団体名を、クスッと釧路＝「クスろ」に、ダジャレやユーモラスなイラスト満載のWebサイトは港町・釧路をイメージできるよう「クスろ港」と命名。



観光地・釧路にあって、「人」をフィーチャー。魅力的な地元の人に出会うイベントや「ひとめぐりツアー」を通して、釧路の中の人をつなげ、釧路を離れた人をつなげ、釧路と他地域をつなげよう活動中。「ひとめぐり」の記事を主としたフリーペーパー「ひとめぐり帖」も発行し、北海道、本州で配布している。



上/「ひとめぐり」で紹介したカレー屋さんは、仲間のためり場になっている。下/常にカメラを持ち、「ネタ」探しを怠らない。



「帰りたい街」にしたい!!
「人」を知れば、地元が好きになるかも。

しよ!! ウチらでやろう!!」半年後、二人は動き出した。釧路湿原や阿寒湖、漁港を改めて訪れると、観光資源の裏側に、それを支える魅力

的な「人」の存在が見えてきた。「人こそ、釧路の資源じゃない?」そこから、人にフォーカスする「ひとめぐり」の企画が生まれた。

生まれ育った場所をどうにかできないか。救世主が現れたのは2013年9月。帰省した高校時代の同級生の名塚ちひろさんと飲みに行き、「釧路ってさ」と話し出したらとってきいて釧路の広大な自然、豊かな食、おもしろい人を知るほどに好きになり、思返した人が増えた。でも、久しぶりに帰省した友達の口から聞くのは「いずれ釧路に戻って来たいけど、いまはまだ帰りたい街になつていない」という言葉ばかりだった」と振り返る。

「帰りたい街」に、いつ、だれが変わるのか。行政? 街のエライ人? 「えい、待つてでも変わらないっ

家業を手伝うため、2012年に札幌から釧路にUターンした夏堀めぐみさんは、以前より元気がなくなつた街を見て、悶々とした思いを抱えていた。「戻

釧路で会って、クスッと笑おう!

『クスろ港』は、
人のつながりを編む。

特集
地域の編集術
EDIT LOCAL

故郷を離れた若者たちに「帰りたい」と思ってもらうには、まず、自分たちが街をおもしろがろう!!
ダジャレとユーモラスなイラストを添えて「釧路ならではのプロ」を紹介する「クスろ港」は、笑顔の輪を広げている。

photographs by Hiroshi Takaoka
text by Tomoe Obata illustrations by Kusuro

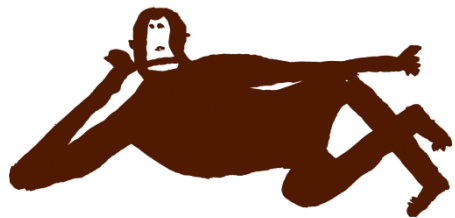


釧路の名所「無難橋(ぬさなばし)」をバックに、元気いっぱい「クスろ」メンバー。「ひとめぐりTOUR」の赤いフラッグは活動の風印だ。

「流域関係人口」という新傾向



ゴミ、捨てんなよ!















山形県・真室川町。
藁や手仕事の楽しさ、
素晴らしさに触れる活動が
始まりました。



高橋さんの作品「ランプシェード」。何本もの裏をつなぎ、折り重ねることであじりのデザインが生まれる



電気を点けた様子。薫の顔周りに暖かみのある光が漏れる。和室だけではなく、洋室にも合うデザイン。

「工房ストロー」、
美しく使いたくなる作品たち!



●1は茎や葉など部位を種類ごとに保管。●2ホウキ、2160円〜。小さく使いやすい。●3細敷き、2160円〜。●4「底入れ」、3780円〜。お酒のほか、玉ねぎなどを入れるのにも便利。●5「編み籠」、324円〜。自ら育てた唐辛子の乾物と裏紙工が一体になった人気商品。●6「ミニ籠」、1080円〜。昔は底履きとして使われた籠のミニ版。●7「座布団」(直径40センチ)1万800円。作品は公式サイト(<http://kobo-straw.com>)で販売予定。

して暮らすなど、循環型の農業を代々
続けている。「両親は農業で僕たち
3人の子供も育ててくれました。
僕が5代目です」。

高橋家では、地域に伝わる年中行事
を昔ながらの方法で行うことも欠
かさなかった。年中行事は五穀豊穡
を願うものが多く、農業との関連が
深い。高橋さんは、そうした伝統文
化に触れながら、野山を駆け回って
育った。「子どもの頃から植物や動
物が大好きで、チャボ、ウサギ、イ
ンコなど、あらゆる生き物を飼ひ、
いろいろな草花を育てましたね」。

農業も好きだったので、早々に農
家を継ぐことを家族から期待され
たが、10代の頃は高校を卒業してすぐ
専業農家になることに抵抗があった
そう。「家族には内緒で公務員試験
を受けました(笑)」。就職したのは、
町役場。地元で居続けながら、休日
に農業を手伝うこともできると考え

ての選択だった。
そこから実に22年間、高橋さんは
勤務し続けた。厚生課や教育委員会
などの後に配属されたのは「町プラ
ンド開発室」。「特定の産品や商品で
はなく、真室川町という地域そのも
のをブランド化するための部署です。
『ないものねだりから、あるもの探
しへ』という考え方で、地域の魅力
を発掘する仕事でした」。

その仕事のひとつが、なんと高橋さ
んが自ら撮影・執筆・デザイン・編
集までを担当した本「娘に伝えたい
郷土食 あがしやれ真室川」。郷土
食のレシピや食文化、年中行事など
をまとめたもので、写真やデザイン
が美しく、たちまちベストセラーに
なった。「地域の人々の協力のおか
げです」と高橋さんは言うけれど、
独学で学んだ人が中心となって創作
したとは思えないほどの精巧なオ
リティに、地域への愛情と高橋さん

地域の手仕事文化を引き継ぎつつ、
現代の暮らしにもマッチする、
新たなツールづくり。

山形県の北部にある真室川町に、
スタイリッシュな藁細工をつくって
いる人がいる。そんな噂を聞きつけ
て、真室川町へ向かった。

噂の人は、「工房ストロー」の藁
細工作家・高橋伸一さん。「ストロ
ー」とは「藁」という意味を持つ。お
会いすると、笑顔と物腰らかな話
し方で迎えてくれた。

真室川町で生ま
れ育った高橋さん
は、実は農家でも
ある。実家が雪割
菜や勘次郎胡瓜な
ど多品目の伝承野
菜や米をつくる農
家なのだ。しかも、
家畜の排泄物から
堆肥をつくったり、
種を自家採取



上/自宅前で、母の好子さん(右)と祖母のテラエさん
(中)と高橋さん(左)。下/好子さんとテラエさんがつく
ってくれた伝承野菜料理や郷土料理の品々、どれも絶品!



工房で作業をする高橋さん。右/役場勤務時代につくった本「娘に伝えたい郷土食 あがしやれ真室川」(発行:真室川町)。

高橋伸一さんの『工房ストロー』。

「古き時代の民具」というだけではなく、
思わず「かわいい!」と言ってしま
う温かさにあふれたモダンな藁細工を発見。そのつくりびとを訪ねました。
photographs by Atsushi Okuyama text by Yoshino Kokubo



右/古代米の田。紫色をした田が大根米。左/素材をつくる技術も手仕事の技術の一つ。乾燥小屋で乾燥させた藁を束ねる高橋さん。

雪、風、ウマ、ウサギが跳ね、
カエルが飛び、イヌが駆ける。
高橋伸一さんの、
最上地方のファンタジー。

異なる角度で、
生き物の表情が
変わります。



①今回のワークショップでは、森の家のオーナメントを製作。②初心者でも分かるよう、ていねいに指導する。③「森の家」にみなさんがそれぞれ創意工夫をするのがおもしろい。④高橋さん。⑤「森の家」の奥庭は1日2食付きで8640円。⑥佐藤孝樹さん、衣利子さん、息子の勘太くん。⑦真室川町の伝承野菜、香野菜の収穫をする高橋さんたち。⑧「森の家」の夕食のおかずの一例。佐藤さんが育てた新五石門芋も。⑨高橋さんがつくった「森の家」の料理。⑩「森の家」の料理を手伝う、真室川町で働く小野美穂さん。



「森の家」でのワークショップの様子。地域の人が高橋工のおもしろさを発見し、輪が広がっている。

がつくった現物をじっくり観察・検証して試作し、分からないことがあれば熱心の職人に聞いている。高橋さんの職人の特徴が2つある。一つが、職人として使う道具をすべて自ら育てていること。箱は種類によって草丈や太さ、色や質感、強度が異なるため、はえきなどの主食用箱のほか、黒米や赤米などの古米で計10種類以上の箱を育て、職人として使っている。さすが農家だ。

もう一つの特徴が、現代の暮らしに合うよう、持ち前のセンスを活かしてアレンジした作品が多いところ。「いつの時代も、ものづくりはその時代に合うようにアレンジされてきたのだと思います。昔ながらのものをただ保存・継承するだけではなく、技術を継ぎつつ新しい価値も生み出していきたいんです」。

高橋さんは農家の仕事は1対2くらいの割合。主に日中は農作業をして、夕方から夜や雨の日に職人をするのだとか。「晴耕雨読ならぬ、晴耕雨編みです」と、高橋さんは笑う。休みはほとんどないほど忙しいそうだが、好きなことが仕事になった喜びを全身で味わっている。

「明日からのものづくりをしてはいけない、と言われたら、僕は生きていけないかもしれない（笑）。今40歳ですが、あつという間でした。あと同じくらい暮らしたら人生終わ

記者が見た
「ソーシャル・デザインの視点」

高橋さんの職人を見た若い人たちは「かわいい」「きれい」と言い、シニア層は「懐かしい」と喜ぶのだから、幅広い人たちに受け入れられるものを制作するセンスやデザイン力が大切だ。

POINT
現代の暮らしに合わせて
アレンジする感性。

のていねいな仕事ぶりが感じられる。同書は今でも売れ続けているそう。

また、真室川町に残っている20種ほどの伝承野菜の発掘調査をし、生産や活用方法を探る取り組みも行った。こうした数々の活動から、高橋さんは情熱あふれる「スーパー公務員」として、地元の有名人に。

2012年、真室川町を含む最上地方の活性化のための事業で、職人の講座が開催され、興味をもって参加したときのこと。元々ものづくりが好きな高橋さんの心を揺さぶる

を。誰か、がしないかな……」と思っただけです。

しかし、そう簡単にその、誰か、は見つからなかった。地域に「あるもの」が見つかったのに、このままではなくなってしまう。消えていくのを見ていたのは寂しい。僕は、自分の身近にある素材だ。2016年春、高橋さんは一大決心をした。

「その、誰かに、自分ができる！」。その決断は、もはや、自分のため、ではなかった。「後世やこれからの日本の文化のためにねばいいなど。震災などの影響で昔の知恵や人とのつながりが今見直されていきます。僕が伝承しておけば、いつか役に立つかもしれない」。

「森の家」のワークショップに、わいわい集まったのは、家族のようなローカルの仲間たち！手を動かして、笑顔が弾みます！

地域の魅力を発見する
リトルプレスたち!

Little Press is Big News!

各地でリトルプレスの文化が花盛りです。
表現も、かたちも、厚みも、写真や文章の使い方もさまざまだけれど、
そこに通底する想いは、自分の暮らす地域への深い愛。
熱っぽかったり、おすまじだったり、笑えたり。
あれ、この感じ、何かに似ている。きっと「人柄」だ。
すべて手に取って読みたくなる、リトルプレスの図鑑です!

photograph by Hiroshi Takaoka text by SOTOKOTO



こちらは、山形県新庄市で発行されている「季刊にゃー」。知ってあるようで知らない地域の生活文化を深掘りして紹介している。

特集

全日本 リトルプレス図鑑



●「にやー」の主要編集メンバー。右から、小嶋可那子さん、吉野敏充さん、沼野啓史さん、安彦栄美さん。●「にやー」をつくる「吉野敏充デザイン事務所」。「新庄市エコロジーガーデン」の敷地内にある。●和気あいあいと編集会議。



●1階にカフェ、2階にショップと図書室を併設した「COMMUNE AOMUSHI」。●「新庄市エコロジーガーデン」は、以前は農林省畜産試験場新庄支場だった。「COMMUNE AOMUSHI」の建物でも産品の販売が行われていた。●「COMMUNE AOMUSHI」の2階。

聞かれ、自然な笑顔が撮れるそうだった。この日は、4号の取材。特集テーマは「新庄・最上の偉人」で、薬細工の名人として知られる伊藤佐吉さんに話を伺う。「今日は佐吉さんに自由にしゃべっていただいて、いい言葉」を拾うつもりです」と小嶋さん。進行管理やイラストを担当する。

「にやー」と相手に共感を求める言葉。取材中、二人は90歳になる佐吉さんの話に耳を傾けていたが、新庄以外の人間にその方言はまったく理解できなかった。「はば聞き取れませんでした」と微笑む小嶋さんは山形市出身。新庄の男性と結婚し、曾祖母や祖母を含む大家族と暮らしているの



「にやー」は、ネコではありません。新庄の方言で「にやー」のことです。



新庄に住んでても行ったことなかった!

「季刊にやー」は、おもしろいなあ!

生の写真と生の言葉が、「季刊にやー」の真骨頂。温かいラーメンを撮影するとき、カメラマンは井から立ち上る湯気まで逃さずシャッターを切る。誌面をのぞき込む読者の顔さえ湯気で覆われそう、演出なしのリアルな写真を撮るために、山形県新庄市の名物「とりもつラーメン」を特集した「季刊にやー」創刊号の表紙も、出来立てのラーメンを湯気とともに活写している。撮ったのは、「にやー」の取材・執筆・撮影を担当している小嶋可那子さんだ。「カメラマンと名乗れるほどの腕はまだ」だと謙遜するが、「にやー」を製作する「吉野敏充デザイン事務所」代表の吉野敏充さんは「小嶋さんが撮る生っぽい写真が「にやー」にはとても合っています。現場の空気感も伝わるし」と信頼をおく。生の新庄を誌面に。それこそが「にやー」のコンセプトであり真骨頂なのだ。写真だけでなく、文章も臨場感にあふれている。生の言葉を引き出すために、小嶋さんは取材相手のところへ何度も足を運ぶ。「新庄の人はシャイなので、取材でと言うと引いちゃうから、普通の客として食べたり、飲んだりして距離を縮め、世間話をするように取材したり、写真を撮ったり」。そのほうが生の言葉が

センスあふれるデザイン！
編集メンバーがおすすめする、
『季刊にゃー』のここが読みどころ！

001

季刊にゃー

【山形県】



春号(2号)

山に囲まれた新庄で、なぜ「くちら」？

新庄の郷土菓子、くちらもちを取り上げました。昔から農家さんの冬仕事としてつくられてきましたが、今は主に菓子店で製造・販売されています。ひな祭りのお供えにも用いられるため、その時期は菓子店も大忙し、そんな多忙な菓子店にお邪魔し、取材しました。くちらもちの歴史や人気の店舗、家庭でのつくり方、今風のおしゃれなメニューとして食べられるカフェも紹介しています。



小嶋さんのリコメンド！
くちらもちと一緒に、新庄の文化に触れてください！



『季刊にゃー』のルーツ

地域の伝統工芸や伝承野菜を紹介！

『にゃー』に至るまでにも、吉野さんたちは伝統工芸や伝承野菜など新庄・最上のものづくりを紹介してきました。先祖から受け継ぐ種を植え、収穫後に種を採り、またその種を植えと、本質的な営みをつづける農家の価値を紹介する「最上伝承野菜」もその一つ。レシピや料理は小嶋さんが担当。『最上』を受け継ぐひととモノ』『新庄を受け継ぐ人たちの』版権は安藤さんです。



沼野さんのリコメンド！
新庄・最上のものづくりから「にゃー」へ！



創刊号

何といても「とりもつラーメン」！

新庄と言えば、とりもつラーメン。そこで、創刊号では、7店舗からなる「愛をとりもつラーメンの会」を中心に、とりもつラーメンを食べられる店を特集しました。独断と偏見で3店舗を大きく紹介しましたが、個人的には「末広」が好きです。理由は、目によってスープや麺の味にばらつきがあるから。「今日はどんな味だろう」とつい臆感をぐちゃぐちゃです。



吉野さんのリコメンド！
新庄に来たら、「とりもつラーメン」を！



夏号(3号)

一見さん歓迎！あけぼの町の楽しみ方が満載。

吉野さんと同じく、私も東京からUターンした新庄市民ですが、最初は、あけぼの町のスナックには入ったことはありませんでした。でも、「あけぼの町のツボ」というイラストマップのページを担当することになり、いろいろ伺っているうちにあけぼの町の魅力に気づかれ、スナックの楽しみを覚えてしまいました(笑)。この号を読んで、若い人もぜひ、あけぼの町に立ち寄ってみてください！



安藤さんのリコメンド！
あけぼの町のスナックのママ、最高ですよ！

地域に昔からある文化を掘り下げ、
現代の人、次世代の人に知ってもらいたい。

だ。「ネコの鳴き声ではないんだにゃー」というふうに。方言も伝え残すべき新庄の文化だという「にゃー」の意思がくみ取れる。

「たかがラーメン」に、
新庄の深い味わいが。
「にゃー」の創刊は2016年12月。

デザイナーの吉野さんが東京から新庄へUターンし、実家の農業を手伝いながら家でデザインの仕事をしていたこと、知り合いから「土内魔校プロジェクト」に誘われ、参加。校舎の雑巾がけイベントなどを実施すると、市報に掲載。市の担当者だ。

新庄市で観光協会、商工会議所などからなる「新庄・最上地域広域情報誌製作委員会」が発足し、助成金200万円を得て2号までの発行資金に。3号からは自走すべく、「にゃー」に共感する地元企業から支援金を募っている。ただ、「なかなかスムーズには」と吉野さん。定価0円のフリーペーパーにとって資金繰りは切実な課題なのだ。



①「にゃー」の次号4号の取材で、農組工名人の伊藤佐吉さんから話を聞く安藤さんと、その横顔を撮る小嶋さん。和やかな雰囲気をつくり、自然な笑顔がもたらした「バシヤ」②新庄に残る民具の使い方を説明してもらった二人。③取材した「新庄ふるさと歴史センター」には、数多くの民俗資料が展示され、「伊藤佐吉コレクション」のコーナーも設けられている。④裏で編まれた作業用の雪靴。



新庄の民具に詳しい伊藤さん。小誌16年7月号で紹介した「工房ストロー」の高橋伸一さんの農組工の師匠だ。



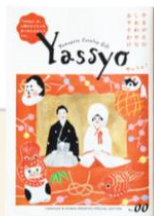
曾祖父と祖父の、DNAを感じる一冊。

『土に叫ぶ』

松田基次郎著・羽田書店
宮沢賢治の教えを受けて、故郷の現・新庄市島越で農業や、農村塾をつくって芸術活動にも力を入れた松田基次郎の著作。僕の故郷も島越で、曾祖父や祖父は基次郎とともに活動しました。今という地域おこし。そのDNAを僕も受け継いでいるのかも。

『季刊にやー』代表・吉野敏充さんが、リトルプレス製作に影響を受けた本5冊。

生き方そのものに、影響を受けた本でもあります。



引き出物用パンフレットを自分たちで取材して製作！

『Yassyo』

葉巻貴之、谷也夏子・発行
山形県で結婚した夫婦が、自分たちの結婚式の引き出物用のパンフレットを自分たちでつくりました。引き出物は、はじめにつくっている農家の農産物や、最上伝承の工芸品などで、その生産者や職人18人を自分で取材・撮影し、掲載しています。すごい！



編集に市民が関わり、小さな世界を紹介。

『かくたのかお』

角田市観光課編・発行
僕もデザイナーとして関わる宮城県角田市のフリーペーパー。編集委員に市民が参加し、身の回りの小さな世界を紹介しています。マジックが得意な中華料理店主とか、フィリピンパブとか(笑)。市民の間わり方や人物の取り上げ方に影響を受けました。



版画？ ガリ版刷り？ その質感に感動！

『むらやま瓦版』

千田善康著・発行
新庄市と隣接する村山市の地域おこし協力隊員だった千田善康さんが発行していたフリーペーパー。村山の文化や出来事を手描3の絵と文章で綴った。1号1枚の瓦版で、全24号あります。版画のような、ガリ版刷りのような質感に衝撃を受けました。



家族を街に置き換えたなら、『にやー』になりそう。

『家族新聞』

浅田政治・奥田満信社・40年
さまざまな普通の家族を、ストーリーとともに写真に収めたドキュメンタリー・フォトブック。写真は浅田政治さん。身近にある普通の世界が普通に描かれて、でも、普通なのにそれぞれに違うおもしろさがある。家族を街に置き換えたなら『にやー』になりそう。

ちゃん的生活空間でもある奥の座敷で、洗濯物が干されていた。「ここは最初、取材を依頼したとき、店主の村岡和久さんから『たかがラーメン。取材なんかしてくるな』と断られた店。でも、逆にその姿勢が新庄らしく、より紹介したくなつて」と吉野さん。小嶋さんが何度も足を運んで距離を縮め、取材にこぎつけた。「媒体のなかには、『紹介してやっつけて』という上から目線で取材に行けと指示されることもあります。それは違うと思うんです。私は取材相手の思いを大事にしたい。だから、中途半端な演出は加えず、生の表情や生の声をそのまま掲載するのです」と小嶋さん。吉野さんも、



④編集メンバーで「末広」へ。座敷はおばあちゃんの生活空間。この座敷で、店主の子どもとその友達が学校帰りに立ち寄って、賑やかにとりもつラーメンを食べることも。家庭的な雰囲気が味わえる。⑤店主曰く、「たかがラーメン」でも、この一杯に新庄の歴史あり。⑥吉野さんが「いちばん好き」と言う「末広」。



「『にやー』は、地方のディープな世界を狙った冊子と思われがちですが、そうではなく、地域の人にとっては日常の世界。ただ、いつも食べているとりもつラーメンが生まれた経緯とか深くは知らない。そんな素朴な疑問を僕ら目線で掘り下げ、発見したことや大切なと思ったことを伝える冊子なのですよ」と、湯気の立つラーメンをおいしそうに頬張った。たかがラーメン、されどラーメン。吉野さんが高校生の頃から頬張っている日常の食べ物を掘り下げ、その井の底に見つけた最後の1個の「とりもつ」に、味わうべき新庄のおもしろさが秘められているのだ。

編集メンバーのユニークな視点が、『季刊にやー』を輝かせます。

そんな『にやー』の生い立ちを聞きながら、夏号(3号)で特集したスナックや居酒屋が集まる「あけぼの町」へ向かった。誌面に登場した「カンナ」のママと通りで出会い、誘われるまま「昭和感」たっぷりの店内へ。カウンターにいた吉野さんが、「『にやー』の反響はどう？」と尋ねると、ママは「良かった。昔のお客さんが思い出して来てくれる。市長まで来たっけ」と笑顔で焼酎をつくる。そして、手料理をカウンターに並べると、「はすある？」と小誌取

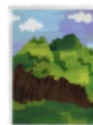


⑦民謡が流れる「カンナ」のカウンター席で、ママの手料理を肴に一杯、また一杯。新庄市の隣の鮎川村の枝豆、ナスの漬け物、あけびとマイタケの肉炒めが小鉢に。「食べてみる、うまいべ？」⑧あけの町(住所は若菜町)に行くときママと遭遇。⑨あけぼの町のスナック街を歩く編集メンバー。⑩カウンターには、『カンナ』も登場する『にやー』の3号が。⑪若い人も来て、みんなにやーとママ。









自然環境



街並み景観



歴史



祭り(イベント) 伝承・文化・信仰



郷土食



街中美術館



町の姿



人



動画



傳



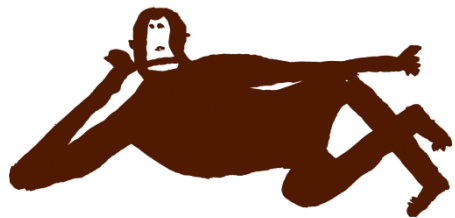
GOODS



「オンライン関係人口」の広がり



ゴミ、捨てんなよ!






しまコトアカデミーとは


講座情報


講師・メンター


受講生の声


ニュース


インターンレポート

 お問い合わせ

 Facebookページ

講座情報



しまコトアカデミーDIGITAL講座



コロナ受け「しまコトアカデミー」

デジタルで全国開講



オンラインでの説明会で「しまコトアカデミー」への参加を呼び掛ける関係者

都会地などで暮らし、島根県に興味を持つ人の学びの場となる講座「しまコトアカデミー」が本年度、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、初めてのオンライン開催に踏み切る。会場に行かずとも全国から参加が可能に

なる。新型コロナで大都市一極集中のリスクが浮き彫りになる中、地方へ人の流れを生み出す新たな切り口につなげていく。

(白楽昂)

しまコトアカデミーは、島根県とシンクタンク・シース総合政策研究所(松江市)、ライフスタイルや環境問題を発信する雑誌「ソトコト」の3者による運営で2012年に開始。移住・定住を最終目的とせず、受講者に「自分なりの地域との関わり方」を考えてもらうのが特徴で、座学▽内を訪問するインターンシップ(就業体験)ができないため、町おこしなどで活躍する「ローカルプレーヤー」を招いた交流会を開く。

「島根らしさ」 変わらない」

県内でのインターンシップ(就業体験)▽プラン作成を経て実践につなげる。

東京、関西、広島、島根の4地域を軸に開催し、これまでに約170人が受講。受講者が島根県内にU・Iターンして起業につながった例も多い。

本年度は8月2日から11月7日まで全7回実施し、全てオンラインで座学や意見交換を行う。県

わで7月14日まで募集

し、選考を行った上で20日まで結果を通知する。

ホームページ <http://www.shimakoto.com>



WhyKumano

Hostel & Cafe Bar
Wakayama





しまね発つながりダイバーシティ 公式YouTubeチャンネル

かかわり「シロ」



で起きることが大事

半径5メートル以内

みんなの気持ちにスイッチが入るのが



0:49 / 2:54



#関係人口 #ローカル #有福温泉

かかわり「シロ」Vol.12 ～江津・有福温泉シリーズエンディングトーク～



#関係人口 #ローカル #教育

かかわり「シロ」Vol.14 ～ 齋ヶ原 祐司さん（NPO法人てごねっと石見）～





ゆざわりんごプロジェクト

6月20日 16:47 · 🌐



本日、りんごのクラフトビールの発送作業を行いました。ご支援いただいた方に感謝を込めて。

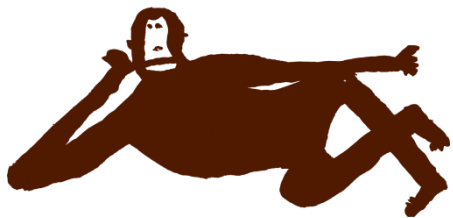
間もなく届きますので、楽しみにお待ちください！... **もっと見る**



ちやのきエンデューロ



ゴミ、捨てんなよ!

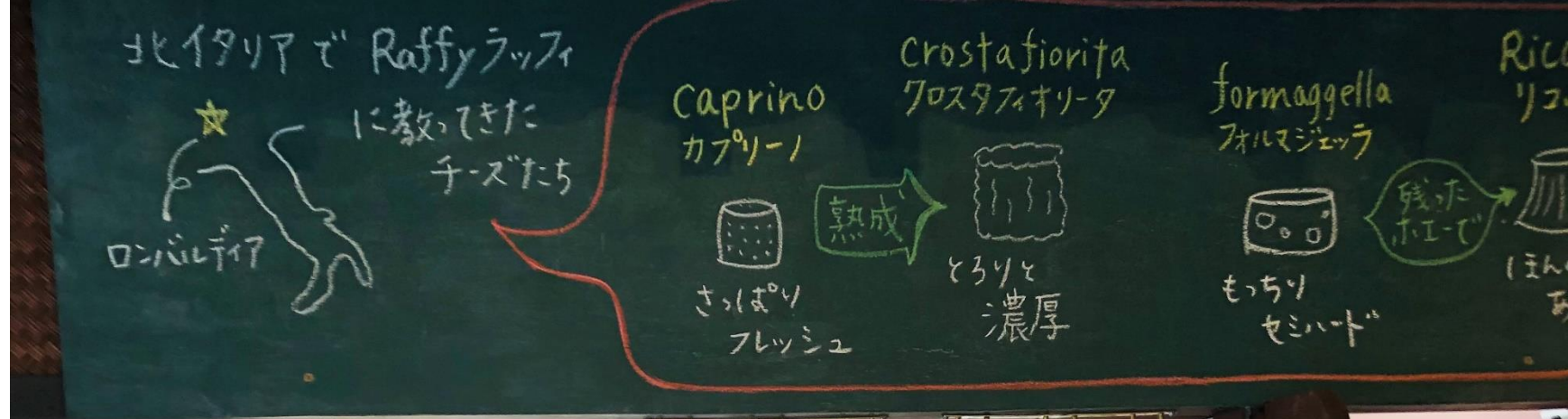














関係人口の新傾向を 理解する視点

1. 関係案内所
2. おしゃれな広域連携
3. SDGs的

ご清聴
ありがとうございました。
最新号は好評発売中！
特集「道の駅入門」

未来をつくるSDGsマガジン 訪れてみたい！リピートしてみたい！「道の駅」の大特集！

ソトコト

11
No. 259 SOTOKOTO
November 2021

1019YEN

道の駅

入門

Introduction to Roadside stations

大好評！

ソトコトOnline
sotokoto-online.jp



アクセスは
こちらから ▶



サステナブル・
ブックガイド
～道の駅をつくる本～
第2特集
全国道の駅
ガイド

ソトコト第259号6号（通巻259号） 2021年10月5日発行（毎月5日発行）

ソーシャル&エコ・マガジン

未来をつくる仲間が増えています!

ソトコト

ありがとう20周年!!

20祝



ゴミ、捨てんなよ!



ゴミ、捨てんなよ!

